



マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i> R.Br.	情報不足
(環境省:絶滅危惧 I A類)		ヒルガオ科
選定理由	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧種に移行し得る要素を有しているが、生育状況等の情報が十分得られていない。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	他の草や低木に巻き付く1年生の寄生植物。茎は黄色い糸状の蔓で、左巻きに巻きつく。葉は小さな鱗片状である。花期は7-10月。花は無柄で数個が束生し、花冠は約2mmで、先は5裂するが、反り返らない。(近縁種のアメリカネナシカズラは反り返る。)	
生態的特徴	日当りのよい野原や海岸に生える。	
分布状況	北海道～琉球、中国、東南アジア、オーストラリアに分布する。県内では岐阜市(1965年)での標本が得られているが、その他の情報が不足している。	
減少要因	本種の分布域は情報不足のためはっきりしないが、もともと生育個体数も少ない。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良